



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月8日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東
 コード番号 7458 URL <https://www.dkkaokae.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	30,276	48.4	3,021	—	3,237	—	3,390	—
2022年3月期第1四半期	20,397	22.5	△1,149	—	△602	—	△324	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 3,458百万円(—%) 2022年3月期第1四半期 △82百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	62.11	62.02
2022年3月期第1四半期	△5.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	181,175	105,518	57.3
2022年3月期	180,389	105,160	57.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 103,880百万円 2022年3月期 103,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	56.00	—	57.00	113.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	56.00	—	57.00	113.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	59,000	49.3	4,400	—	4,800	—	5,200	—	95.25
通期	126,500	33.5	12,000	—	12,800	—	10,000	92.4	183.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2022年8月8日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期1Q	54,734,200株	2022年3月期	54,734,200株
2023年3月期1Q	141,260株	2022年3月期	141,260株
2023年3月期1Q	54,592,940株	2022年3月期1Q	54,523,771株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(追加情報)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年6月30日、以下「当第1四半期」という)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響が徐々に弱まり、個人消費を中心に正常化への動きがみられましたが、コロナ禍の収束は依然見通せないことに加え、急激な円安やエネルギー資源及び原材料価格の高騰などにより、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当カラオケ業界におきましては、まん延防止等重点措置とそれらに伴う要請等が解除されたことにより、ナイト市場・カラオケボックス市場ともに多くの店舗が通常営業を再開しており、ビジネス立地や深夜帯の集客など一部にはコロナ禍の影響が継続したものの、全体として回復傾向で推移いたしました。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第1四半期の業績は、売上高は30,276百万円(前年同期比48.4%増)となり、営業利益は3,021百万円(前年同期は1,149百万円の損失)、経常利益は3,237百万円(前年同期は602百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,390百万円(前年同期は324百万円の損失)となりました。

なお、前連結会計年度を対象とした雇用調整助成金や時短協力金をはじめとする各種給付金を「助成金収入」として、1,675百万円(前年同期は2,913百万円)を特別利益に計上しております。

また、各種給付金のうち、12億円程度は第2四半期以降の決算において計上する見込みです。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	20,397	30,276	9,878	48.4%
営業利益	△1,149	3,021	4,170	—
経常利益	△602	3,237	3,840	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△324	3,390	3,715	—

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、各種要請が解除されたことに伴う顧客店舗の再開や新規開店の増加により、主力市場であるスナック・バーなどのナイト店舗を中心に、事業環境は回復傾向で推移いたしました。

このようななか、当期の重要課題としておりますDAM稼働台数回復のため、ナイト店舗の経営者向けにカラオケ機器導入を支援するウェブサイト「カラオケの窓口」を前期に開設したことに加え、4月には物件情報サイト「よるみせナビ」を開設したほか、介護施設等のエルダー市場においてはオンラインイベントを開催するなど、当社の強みである対面での営業に加え、ウェブも活用した営業体制の構築に努めました。

また、昨年10月にリリースいたしました、ライブの臨場感をそのままカラオケ店で体感できる新コンテンツ「ライビュー！」をはじめ、ライブ映像・アニメ映像・ミュージックビデオなどの映像コンテンツをさらに充実させることにより、カラオケDAMの商品力強化を図りました。

以上の結果、売上高は前年同期比10.8%の増収となり、営業利益は前年同期比19.9%の増益となりました。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	12,944	14,336	1,392	10.8%
営業利益	3,147	3,773	625	19.9%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、業態変更を含め、飲食2店舗の出店及び飲食4店舗の閉店を行ったことにより、当第1四半期末の店舗数はカラオケ503店舗、飲食173店舗となりました。

コロナ禍に伴う各種要請が解除されたことにより、店舗の集客は期初から徐々に回復傾向で推移しており、ビジネス立地や深夜帯の集客など一部にはコロナ禍の影響が継続したものの、当第1四半期の既存店売上高はコロナ禍以前に比べ3割減(前年同期は8割減)の水準まで回復いたしました。

このようななか、ビッグエコー店舗においてはカラオケの楽しさをより高めることで顧客満足度向上につなげるため、最上位機種である「LIVE DAM Ai (ライブダムアイ)」を全室に設置した店舗を44店舗とするなど、設備面での強化を図ったほか、6月より全店で開始した「最強学割」を打ち出すことなどにより、若年層の集客にも注力いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比223.0%の増収となり、530百万円の営業損失となりました。

(百万円)				
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	3,519	11,365	7,846	223.0%
営業利益	△3,880	△530	3,349	—

(音楽ソフト)

当事業におきましては、イベント・コンサートが徐々に再開され始めるなど、音楽業界にも活気が戻りつつあるなかで、CD・DVD等の商品販売が回復傾向で推移いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比15.2%の増収となり、営業利益は前年同期比25.2%の増益となりました。

(百万円)				
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	1,374	1,582	208	15.2%
営業利益	46	58	11	25.2%

(その他)

当事業におきましては、新たな収益の柱とするべく「ザ・パーク」ブランドで展開するパーキング事業が堅調に推移し、当第1四半期末時点で1,800施設、22,000車室を超える規模に拡大いたしました。

以上の結果、売上高はパーキング事業収入の増加などの影響により前年同期比16.9%の増収となり、営業利益は前年同期比108.3%の増益となりました。

(百万円)				
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	2,559	2,990	431	16.9%
営業利益	195	407	211	108.3%

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ785百万円増加し、181,175百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産の受取手形及び売掛金が394百万円及びその他に含まれる前払費用が1,571百万円それぞれ増加し、現金及び預金が344百万円及び棚卸資産が220百万円それぞれ減少しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ426百万円増加し、75,656百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債の支払手形及び買掛金が298百万円及びその他に含まれる未払費用が1,579百万円それぞれ増加し、未払法人税等が760百万円及び賞与引当金が539百万円それぞれ減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ358百万円増加し、105,518百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加3,390百万円及び剰余金の配当による利益剰余金の減少3,111百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましては、本日(2022年8月8日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	68,214	67,869
受取手形及び売掛金	4,127	4,521
棚卸資産	7,596	7,375
その他	4,796	5,850
貸倒引当金	△457	△379
流動資産合計	84,277	85,238
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	6,294	6,561
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	10,380	10,061
土地	40,341	40,341
その他（純額）	5,970	6,036
有形固定資産合計	62,987	63,001
無形固定資産		
のれん	996	979
その他	5,861	5,813
無形固定資産合計	6,858	6,792
投資その他の資産		
投資有価証券	4,507	4,516
敷金及び保証金	13,449	13,697
その他	8,375	8,067
貸倒引当金	△64	△139
投資その他の資産合計	26,267	26,142
固定資産合計	96,112	95,936
資産合計	180,389	181,175

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,614	2,913
短期借入金	6,098	16,207
未払法人税等	1,985	1,225
賞与引当金	1,141	601
その他	9,817	11,249
流動負債合計	21,658	32,197
固定負債		
長期借入金	41,705	31,481
役員退職慰労引当金	993	984
退職給付に係る負債	7,846	7,932
その他	3,024	3,060
固定負債合計	53,570	43,458
負債合計	75,229	75,656
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,114	4,114
利益剰余金	87,733	88,012
自己株式	△570	△570
株主資本合計	103,628	103,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	606	605
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	69	118
退職給付に係る調整累計額	△26	△17
その他の包括利益累計額合計	△84	△26
新株予約権	219	237
非支配株主持分	1,397	1,400
純資産合計	105,160	105,518
負債純資産合計	180,389	181,175

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	20,397	30,276
売上原価	14,440	19,417
売上総利益	5,956	10,858
販売費及び一般管理費	7,106	7,837
営業利益又は営業損失(△)	△1,149	3,021
営業外収益		
受取利息	4	3
受取保険金	294	67
受取協賛金	76	50
その他	291	211
営業外収益合計	667	332
営業外費用		
支払利息	54	43
為替差損	19	18
解約違約金	17	1
その他	29	51
営業外費用合計	120	115
経常利益又は経常損失(△)	△602	3,237
特別利益		
固定資産売却益	9	0
助成金収入	2,913	1,675
特別利益合計	2,922	1,675
特別損失		
固定資産処分損	13	6
減損損失	28	4
新型コロナウイルス関連損失	2,652	—
特別損失合計	2,695	10
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△375	4,902
法人税、住民税及び事業税	433	1,135
法人税等調整額	△496	366
法人税等合計	△62	1,501
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△312	3,401
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	10
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△324	3,390

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△312	3,401
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	196	△0
為替換算調整勘定	22	49
退職給付に係る調整額	10	8
その他の包括利益合計	229	57
四半期包括利益	△82	3,458
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△94	3,448
非支配株主に係る四半期包括利益	11	10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	12,944	3,519	1,374	17,838	2,559	20,397	—	20,397
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	3,147	△3,880	46	△686	195	△490	△658	△1,149

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△658百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	14,336	11,365	1,582	27,285	2,990	30,276	—	30,276
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	3,773	△530	58	3,300	407	3,708	△687	3,021

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△687百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(追加情報)

固定資産の減損及び税効果会計等におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響について、2023年3月期を通じて緩やかに改善し、中期的にはコロナ禍以前の水準まで業績が回復するものと仮定し、将来キャッシュ・フロー及び繰延税金資産の回収可能性等の見積りを行っております。

なお、前連結会計年度末の仮定について重要な変更を行っておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い、従業員の出勤停止期間中の給料等を対象として助成を受ける雇用調整助成金のほか、国及び地方自治体等から給付を受ける助成金等を「助成金収入」に計上しております。

新型コロナウイルス関連損失

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い、対象地域の従業員を出勤停止（特別休暇）とする措置を講じました。また、政府及び地方自治体からの要請に応じ、当社運営店舗及び顧客運営店舗においては臨時休業及び時短営業を行いました。

これらの事象に対応し、従業員の出勤停止期間中の給料等、休業期間中の当社運営店舗の固定費及び業務用カラオケ機器の賃貸等に係る固定費を「新型コロナウイルス関連損失」に計上しております。